

健康寿命テーマに講習

J C M A オンライン形式で開催

コンクリートメンテナンス協会(J C M A、徳納剛会長)は16日、5〜10月にかけて全国14都市で開催を予定していた「コンクリート構造物の補修補強に関するフォーラム」について、新型コロナウイルス感染症の影響で講

習会形式での開催を断念し、専門家による無料の講演動画配信方式に切り替えると発表した。同講習会は土木学会の認定CPDプログラム。動画を視聴し、その中で表示されるI Dとパスワードを入力、質問事項に回答することでオンライン講習でも単位が認定される。動画配信は来年3月31日まで。

15講演を公開

動画は15本あり、講演時間は10〜130分ほど。オンラインフォーラムでは「コンクリート構造物の健康寿命を考える」をテーマとし、亜硝酸リチウムを用いた補修事例など様々なコンクリート構造物の補修・補強に関する事例を交えて講演する。予防保全と事

後保全の双方の観点から経済性を考慮したコンクリート構造物の健康寿命を延ばすための維持管理の考え方、最新の調査診断技術、適切な維持管理技術を紹介する。また、それぞれのレジユメも同ホームページ上に公開されている。各講演の演題は次の通り。

▽「コンクリート構造物の補修・補強について」シナリオデザイン(宮川豊章・京都大学教授)▽「コンクリートの非破壊診断技術の有効活用に向けて」使いたくなる技術を生み出す研究開発の進め方(鎌田敏郎・大阪大学教授)▽「亜硝酸リチウムを用いた補修の設計・施工指針(案)の紹介」(十河茂幸・近未来コンクリート研究会代表)▽「小規模橋梁の点検要領(案)改訂版」(十河茂幸・近未来コンクリート研究会代表)▽「コンクリート構造物の予防保全と長寿命化」(竹田宣典・広島工業大学教授)▽「歴史的建築物の保存・修復」鉄筋コンクリート造の現状と課題(濱崎仁・芝浦工業大学教授)▽「P C構造物の有効な維持管理」(真鍋英規・C O

R E技術研究所)▽「亜硝酸リチウムを用いた補修技術とその施工事例の紹介」(江良和徳・コンクリートメンテナンス協会技術委員長)▽「維持管理シナリオを考慮したコンクリート補修の考え方」(江良和徳・コンクリートメンテナンス協会技術委員長)▽「コンクリート塗装材の役割」視認性塗料と剥落防止材料(中丸大輔・日本ペイント)▽「セメント系補修材料の使い方」(高原幸之助・セメント協会)▽「電気化学的防食技術と健康寿命」(若杉三紀夫・日本

エルガード協会、C P工法研究会)▽「亜硝酸塩の有効的な工法の紹介」(池田幹友・エス・エルテック代表取締役)▽「S T T G工法の概要、各種試験結果、施工実績他」(佐藤巨・S T T G工法協会理事)▽「支張りバイバルシステム」金属溶射と常温亜鉛めっき塗装による既設橋梁支承の長寿命化(野村一貴・ダイクレ興産)。また、「P V B樹脂と珪砂を用いた高耐久防食鉄筋」(新村亮・大林組)の動画は制作中で、28日現在、準備中となっている。



動画配信ページのQRコード